

平成23年5月6日  
総務省  
(財)自治体国際化協会

## 第5回姉妹自治体交流表彰（総務大臣賞）

姉妹自治体交流表彰（総務大臣賞）は、日本と海外の自治体の姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富んだ取組を行っている団体を表彰し、広く全国に紹介することによって、姉妹自治体交流の更なる活性化を図り、もって地域の国際化に資することを目的としています。

このたび、次のとおり受賞団体が決定しましたので、お知らせいたします。

### 1 受賞団体

高崎市（群馬県）、金沢市（石川県）及び宮城・ベラルーシ協会（宮城県仙台市）の3団体

### 2 表彰式

日時 平成23年5月13日（金） 11:50～12:30  
場所 ルポール麹町 2階 ルビー  
（東京都千代田区平河町2-4-3 電話 03-3265-5361）

#### （添付資料）

- 資料1 第5回姉妹自治体交流表彰 受賞団体の概要
- 資料2 姉妹自治体交流表彰の概要

#### （連絡先）

総務省自治行政局国際室 山形課長補佐、井上  
電話：03-5253-5527（直通）  
FAX：03-5253-5530  
自治体国際化協会交流親善課 山本課長、長谷  
電話：03-5213-1723（直通）  
FAX：03-5213-1742

資料 1

第 5 回姉妹自治体交流表彰 受賞団体の概要

○高崎市（群馬県）

姉妹提携先	バトルクリーク市（アメリカ）、サントアンドレ市（ブラジル）、承德市（中国）、プルゼニ市（チェコ）、モンテンルパ市（フィリピン）
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高崎市は 1990 年に姉妹都市 4 市と「第 1 回高崎サミット」を開催し、文化・スポーツ交流事業を開始。</li> <li>・その後、環境をテーマとした「地球市民環境会議」を各都市持ち回りで開催。2006 年からはモンテンルパ市を加えた 6 市で、これまでの交流をさらに発展させ、環境問題の解決と各市の持続的な発展に努めていくことを共同宣言。</li> <li>・現在は環境を主要テーマとしながら、観光、都市交流等をサブテーマとして会議を継続しており、2011 年はバトルクリーク市、2012 年は高崎市で開催の予定。</li> </ul>
審査委員会 評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南米、北米、欧州、アジアの各都市間で「環境」という世界共通のテーマに取り組み、「地球市民環境会議」を持ち回りで開催することによって、継続的な発展に向けた基盤が作られている点。</li> <li>・NPO が行政と市民・企業の間で会議をコーディネートする等、多様な主体が交流の主役として積極的に関与しており、市民による草の根レベルの交流が浸透している点。</li> <li>・環境保全の先進的な分野（カーボンオフセット等）にも取り組み、姉妹提携先自治体においても高い評価を得ている点。</li> </ul>

○金沢市（石川県）

姉妹提携先	ナンシー市（フランス）
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢市とナンシー市は 1973 年に姉妹都市提携し、両市の特徴である文化・芸術・歴史的まちづくりや、交換留学や教員交流等、教育に重点を置いた交流を継続。</li> <li>・両市による交流をもとに、2008 年に日仏交流 150 周年と姉妹都市提携 35 周年を記念し「第 1 回日仏自治体交流会議」（日本側 12 自治体、フランス側 17 自治体参加）をナンシー市（フランス）にて開催。金沢市長は日本側参加都市を代表する議長を務めた。</li> <li>・2010 年には「第 2 回日仏自治体交流会議」（日本側 26 自治体、フランス側 18 自治体参加）を金沢市にて開催。また、両市の創造的な文化活動と革新的な産業活動を連環させ、都市の持続的発展を目指す「ものづくり協定」を締結。</li> </ul>
審査委員会 評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンシー市との長年の交流を継続しながら、フランスの自治体と姉妹提携している日本の自治体を巻き込んで、多面的な議論を展開する機会を作り出し、相互の発展を目指すという先進的な取組を行っている点。</li> <li>・金沢市の伝統である文化・芸術に加えて、ものづくりの分野でも姉妹自治体交流と融合させ、地場産業の発展を目指すという戦略的な取組を行っている点。</li> </ul>

○宮城・ベラルーシ協会（宮城県仙台市）

姉妹提携先	ミンスク市（ベラルーシ）
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1996年、2002年、2007年の三度にわたり、協会が主体となり仙台市民訪問団がミンスク市を訪問し、高齢化問題や教育事業等に関する意見交換、七夕制作体験等の市民交流事業を実施。また、チェルノブイリ原発事故の被災者救済を行うミンスク市支援のため高度医療機器を寄贈。</li> <li>・1991年から仙台市で毎年開催している「仙台国際ハーフマラソン」に、ミンスク市からの訪問団を積極的に受入れ。また、協会の仲介による大学への新体操コーチの派遣など、スポーツや青少年同士の交流を継続。</li> <li>・2008年には同協会の協力の下、姉妹都市提携35周年を記念し、仙台市にてミンスク市の写真展や紹介イベントを開催（主催：仙台市、仙台国際交流協会）。</li> </ul>
審査委員会 評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市は日本で唯一、ベラルーシの自治体と姉妹提携しており、日本国内においてなじみが薄く、政治体制が不安定な国との交流を継続するために様々な努力を重ねている点。</li> <li>・市民有志からなる同協会が、行政に依存せず交流の中心的な役割を担っており、相手国との信頼関係やネットワークが、両市の市民レベルでの理解を深めることに大いに役立っている点。</li> </ul>

## 資料 2

# 姉妹自治体交流表彰の概要

### 1 主催

総務省、財団法人自治体国際化協会

### 2 表彰団体

日本の自治体と海外の自治体の姉妹自治体提携に基づく交流活動を行っている次の団体とする。

- (1) 都道府県
- (2) 市町村及び特別区
- (3) 地域国際化協会、国際交流協会等の民間非営利団体

※姉妹自治体提携の要件 次の要件のすべてに該当すること

- ①両首長による提携書があること
- ②交流分野が特定のものに限られていないこと
- ③交流に当たって、何らかの予算措置が必要になるものと考えられることから、議会の承認を得ていること

### 3 賞の種類及び表彰団体数

- (1) 総務大臣賞 3団体以内
- (2) 前項のほか、特に表彰に値する団体がある場合には、審査委員会特別賞として表彰することができる。

### 4 審査基準

次の(1)～(5)の各項目を基準とする。但し、審査基準のすべての条件を満たす必要はない。

- (1) 先進性・独自性 他の模範となる先進的な取組、創意工夫、地域独自の特性を活かした取組 等
- (2) 継続性 活動の継続、効果や実績の定着 等
- (3) 活発性 活動内容の充実の度合い、頻度 等
- (4) 協働性・連携性 行政と住民との協働、連携 等
- (5) 効果 地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上 等

### 5 推薦及び選考方法

都道府県及び政令指定都市から推薦のあった団体について、有識者等で構成する審査委員会(別紙)の審査を経て、総務省と自治体国際化協会が決定する。

資料2別紙

第5回姉妹自治体交流表彰審査委員会委員

平成23年3月31日時点

委員長	ナカムラ アキラ 中邨 章	明治大学政治経済学部 教授
委員長代理	エノキダ カツトシ 榎田 勝利	愛知淑徳大学文化創造学部 教授
委員	アリタ ミチヨ 有田 典代	特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会 前事務局長
委員	イチハシ ヤスヒコ 市橋 保彦	財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際 文化研修所 学長
委員	ウエダ ヒロシ 上田 紘士	財団法人 自治体国際化協会 専務理事
委員	クドウ ヒロコ 工藤 裕子	中央大学法学部 教授
委員	ユウ イ 孔 怡	株式会社天怡 代表取締役
委員	マトイ ヒロキ 的井 宏樹	総務省自治行政局国際室 室長
委員	メンジユ トシヒロ 毛受 敏浩	公益財団法人 日本国際交流センター チーフ・プ ログラム・オフィサー